

都市大塩尻男子 6年ぶりV



都市大塩尻一上田 後半17分、決勝点となるゴールを決め、両手を広げて喜ぶ都市大塩尻・代田(右)

的確な判断、2年生が殊勲弾

前半のうちに打っておいた右石が後半17分に手を結ぶ。サッカー男子決勝の都市大塩尻は、途中出場した代田が決勝ゴール、狙いが的中し6年ぶりの頂点に立った高橋監督は「よく狙った」と殊勲の2年生を褒めた。自陣からのFKを自身の勝負が頭を流した代田が抜け出した。DF・GKがシュートコースを消さずと寄せてくる中、「迷ったから入らない」と素早い判断でGKの脇を抜いた。高橋監督は「早い時間帯からの起用を、中盤でボールが動かせていたので、(スリッドが武器の)代田を入れて試合に慣れさせたかった」と説明。選手をそれに応じた。先発の半数以上は中学時代に県選抜を経験。現在の3年生が入学した当時からの躍進を予想する声は大きかった。「(今年が勝負だった)ことは、ずっと頭にあっただ」と高橋監督。1年生のうちから試合経験を積み、今年4月には自分勝手なプレーが目立った3年生全員に丸刈りを命じて活を入れ、並々ならぬ決意を醸成させた。その思いは選手も理解している。根本主将は「全国は出るだけだな、勝てるチームにして戦いたい」。6年前は果たせなかった初戦突破が最初の目標になる。(板倉 就五)

全国切符目前…上田悔しい失点

〇…無失点で決勝まで勝ち上がった上田は、相手の攻勢に守備陣が耐えていたものの、一瞬の隙を突かれて大会初失点。この1点で敗れ、5年ぶりの全国切符を逃した。準決勝でハットトリックした得点源の田中が立

ち上がりに足を痛め、前線での起点を失ったことが痛かった。チャンスは多かった。この数は相手が上。その差だったバックの永井主将は「失点はカバーが悪かった」と悔やみ、「次こそ最後の、絶対に優勝したい」と秋の全国高校選手権大会に目標を切り替えていた。

6/6 信濃毎日新聞

6/6 スポニチ



＜東京都市大塩尻・上田＞6年ぶりの全国大会出場に貢献した東京都市大塩尻・代田(左)は両手をあげて笑顔。中央は上田・田中

点場面に涙を流した。終盤は自ら前線に上がり、バウフレに上付き、率いて2年目の金井伸明監督は「力不足を乗り越えて、チャンスを向かうのが多かった」と涙く負けを受け止めた。

東京都市大塩尻がV サッカー全国高校総体出場へ



6/6 朝日新聞



県高校総合体育大会のサッカー競技の決勝が5日、大田市運動公園サッカー場であった。東京都市大塩尻が上田を1-0で下し、優勝しながら右足を振り抜き、決勝点を決めた。根本主将は「(全国では)全員が流動的に動く自分たちらしいサッカーで、一戦一戦勝って優勝したい」と話した。(成田 太郎)

都市大塩尻 優勝 6年ぶり全国へ



県高校総体は集市白の2-16日、県内各地で22競技を行った。このうちサッカーは5日、大田市運動公園サッカー場で決勝をし、都市大塩尻が1-0で上田を破り、武蔵工大に2-0で2005年以来、6年ぶり4度目の優勝。全国総体(インターハイ)は7月28日-8月3日、秋田市で開催された。前半35分、都市大は前半、引き気味の田中を攻めあぐねて

決めた手は欠いたが、立点を守り切った。立ち上がりから攻め合う展開になった後半17分、FK後の競り合いで、FK後の競り合いの松商学園(松本市)でこぼれたボールを前に2-1で逆転勝ち。中途時代に実績を挙げた代田勝也(2年)が蹴った選手が3年生になり込み先制。上田の激る今年に照準を合わせた攻めをしのぎ、1-1で試合経験を積ませ

サッカー

(大田市運動公園サッカー場)

▽準決勝

都市大塩尻 2(20-1)0 松商学園

上田 4(22-0)0 小諸商